

大空町の新しい高校づくり
「新しい高校のビジョン」アンケート結果報告書

平成29年11月
大空町教育委員会

も く じ

1. 調査概要	2
(1)調査の目的	2
(2)調査対象者	2
(3)調査期間	2
(4)回収状況	2
(5)調査結果の示し方	2
2. 調査結果	3
(1)自身の子どもにおける進路について	3
(2)新しい高校のビジョンについて	6
(3)自由記載の意見について	10
3. 総括	11
資料編 アンケート自由記載意見一覧	12

1. 調査概要

(1) 調査の目的

町内には女満別高校と東藻琴高校がありますが、入学者数の減少により「2校ともに存続させることは難しい」と判断し、平成29年3月に教育委員会として統合に向けた「7つの方針」を示しました。しかし、その後の町民説明会等で、方針の内容に様々な意見が出されたため、指摘の多かった点について検証を行い「新しい高校のビジョン」を作成したところです。このアンケートは、これから高校に入学する小学生及び中学生の保護者を対象に、高校づくりへの関心を高め、現状の「新しい高校のビジョン」について意見を聞くことを目的に実施したものです。

(2) 調査対象者

大空町の小学生及び中学生の保護者
配布数 602人

※同じ世帯で2名以上の子どもがいる場合は、それぞれの子どもの分を提出

(3) 調査期間

平成29年11月1日～平成29年11月10日
小学校及び中学校を通じて配布、回収を行いました。

(4) 回収状況

462人から回収 【回収率 76.7%】

学校別回収率

学校	配布数	回収数	回収率
女満別小学校	279	211	75.6%
東藻琴小学校	113	82	72.6%
女満別中学校	143	109	76.2%
東藻琴中学校	67	60	89.6%
合計	602	462	76.7%

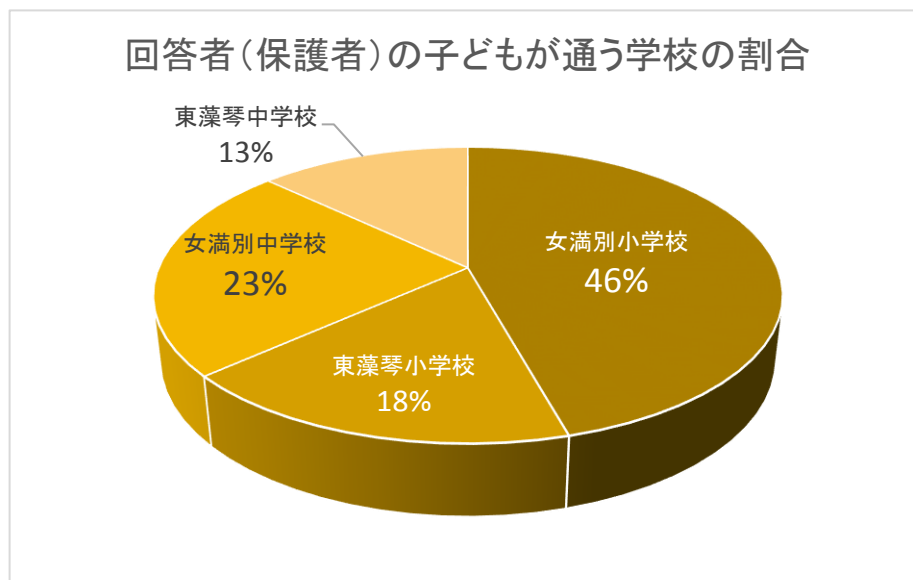
(5) 調査結果の示し方

- ・調査結果の数値は構成比(%）、もしくは回答数(件)で示しています。
- ・構成比の母数は回収数の合計とし、無回答も比率を示しています。
- ・構成比(%)は、小数第1位を四捨五入した値としています。
- ・端数処理、複数回答の設問は構成比の合計が100%にならない場合があります。

2. 調査結果

(1) 自身の子どもにおける進路について

Q1 お子様の通っている学校について、あてはまる学校に○をつけてください



○ 回答結果

【単位:件数】

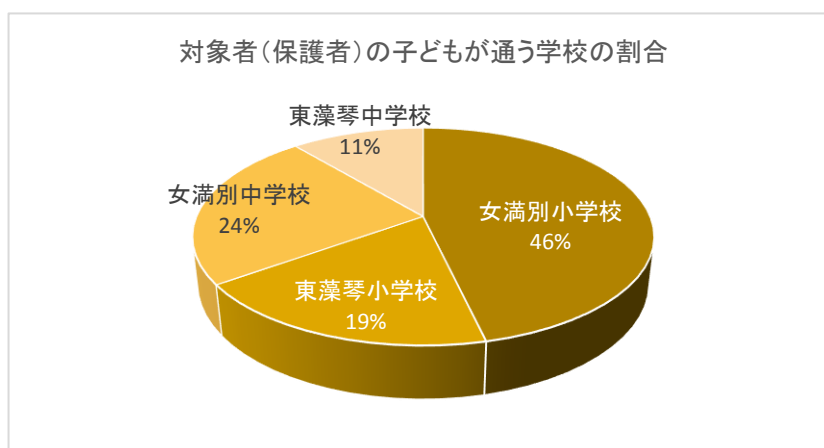
女満別小学校	東藻琴小学校	女満別中学校	東藻琴中学校	無回答	合計
211	82	109	60	0	462

※ 兄弟や姉妹がいる場合は、それぞれの子どもごとに回答している

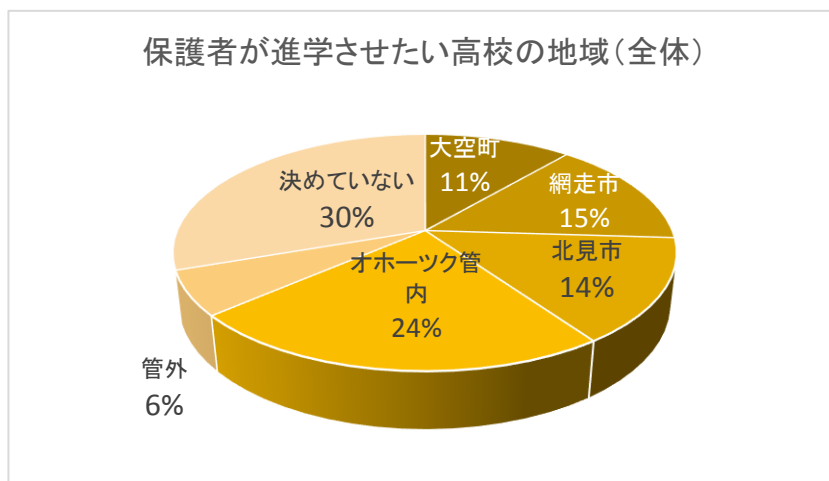
回答者全体に占る小学生保護者の割合が64%を占めており中学生保護者は36%となっています。また、回答者の地域別の割合は、女満別地域は69%、東藻琴地域は31%です。

各学校における回収率は72%から89%と差がありますが、回答者と対象者の学校別の割合を比較しても、さほど差がないことから、以後の分析は統計的に影響のないものと考えます。

【参考資料】 アンケート対象者(保護者)の小学校・中学校別の割合



Q2 お子様が高校に進学するなら、どの地域の高校で学ばせたいと考えていますか。あてはまる地域に○をつけてください(一つのみ)

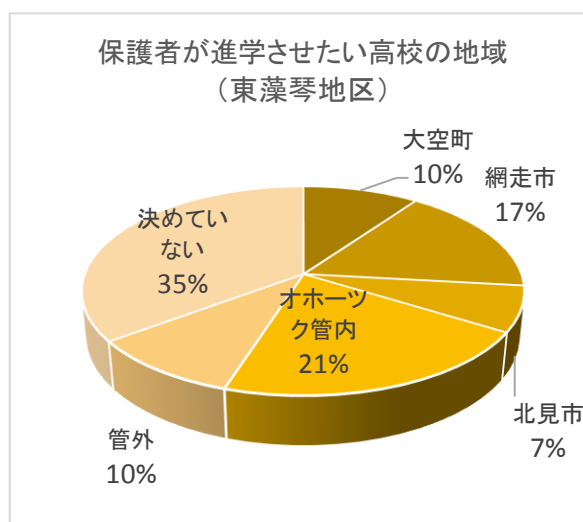
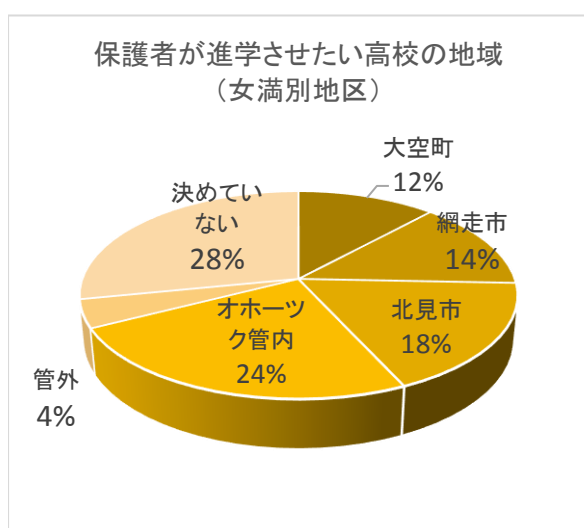


○ 回答結果 (全体)

【単位: 件数】

大空町	網走市	北見市	オホーツク管内	管外	決めていない	無回答	合計
52	68	66	108	28	140	0	462

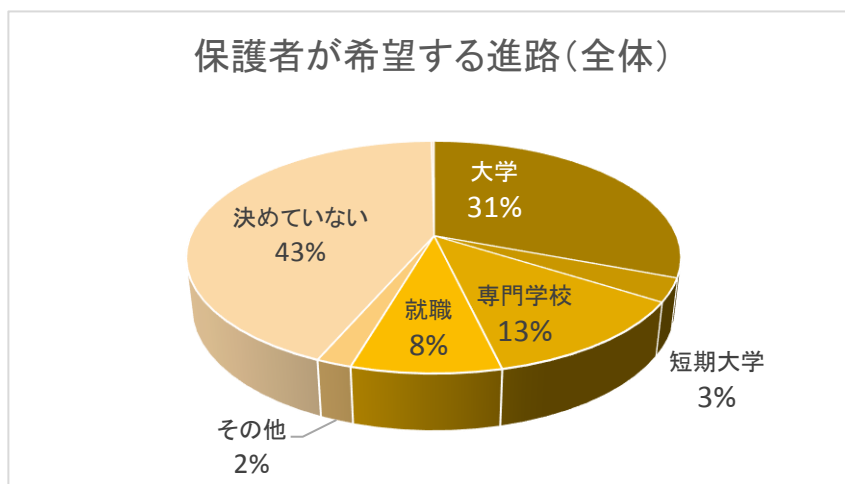
子どもが進学する地域を保護者の視点で考えると、『子どもの意向』、『子どもの学力』、『公共交通機関』、『経済的負担』などの要因が少なからず影響を及ぼすこととなります。今回の調査は小学生の保護者が多いことから、進学先の地域を「決めていない」と答えた割合が30%と最も多く、次いで「オホーツク管内」の24%となっていますが、「大空町」は11%、「網走市」「北見市」は15%前後となっていることから、町外へ進学させたいと考えている保護者の方が多いことがわかります。



両地区の交通網の違いから特徴的な結果となっています。

女満別地区の「北見市」の割合が東藻琴地区の3倍となっており、反対に東藻琴地区の「網走市」や「管外」の割合が高くなっています。女満別地区はJRの駅があることから「北見市」への通学が可能ですが、東藻琴地区は進学できる地域が「町内」と「網走市」に限定されるので、経済的負担が増しても「管外」への進学を希望する保護者の割合が高くなっています。同じ町内でありながら、交通網の違いによって子どもたちの進路に影響が生じています。

**Q3 お子様が高校に進学したら、どの進路に進んでほしいと思いますか。
あてはまる進路に○をつけてください(一つのみ)**



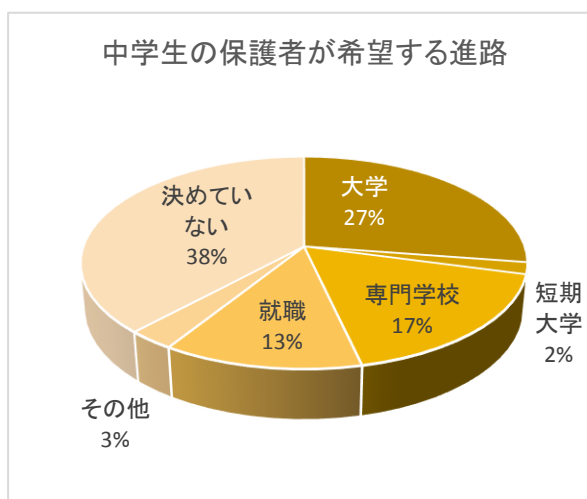
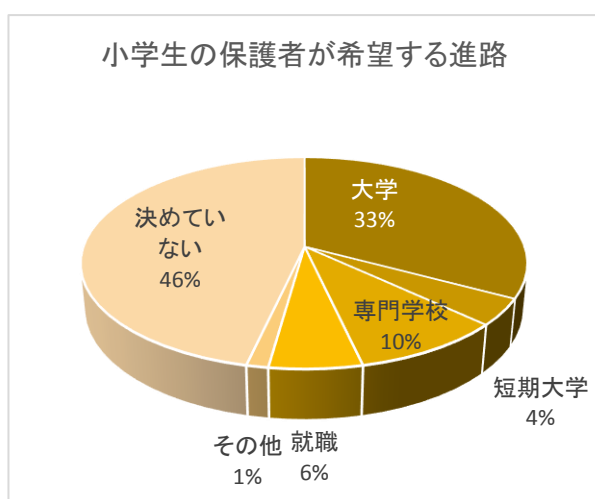
○ 回答結果 (全体)

【単位: 件数】

大学	短期大学	専門学校	就職	その他	決めていない	無回答	合計
142	15	57	38	9	200	1	462

高校進学後の進路について、「決めていない」と答えた保護者の割合が43%と最も多く、次いで「大学」の31%、「専門学校」の13%、「就職」は8%になっています。

文部科学省の全国的な統計によると「大学・短大」への進学は54%、「専門学校」が23%、「就職」は15%になっています。今回の調査では、「決めていない」保護者が44%を占めているため、希望進路を明確にした保護者(57%・261件)だけで見ると、「大学」「短大」は60%「専門学校」は21%、就職は15%となり、全国的な統計とほぼ同様の結果となっています。

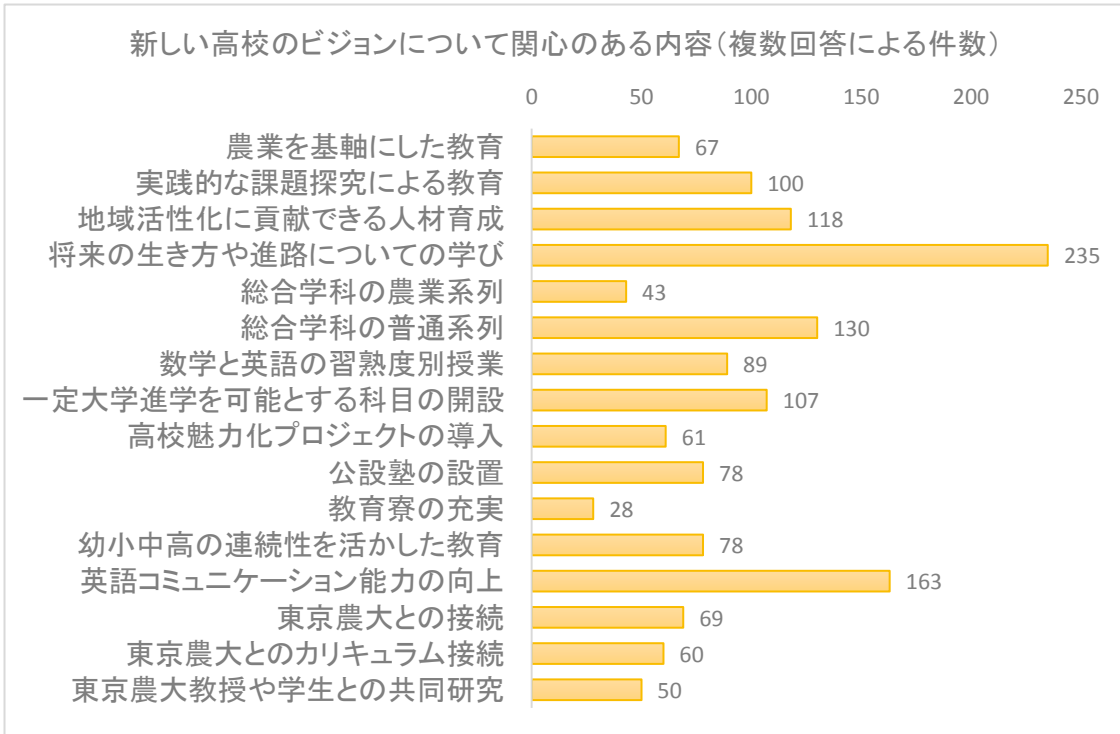


小学生に比べて中学生になると「決めていない」割合は減少し、「専門学校」や「就職」が増えるなど、希望する進路先も具体的になっています。

中学生の保護者のうち「決めていない」方が38%いる中で、進路希望を明確にしている保護者だけ(62%・104件)の内訳は、「大学」「短大」が47%、「専門学校」が28%、「就職」は20%となり、全国平均に比べ「専門学校」(+5%)と「就職」(+5%)が高くなっています。

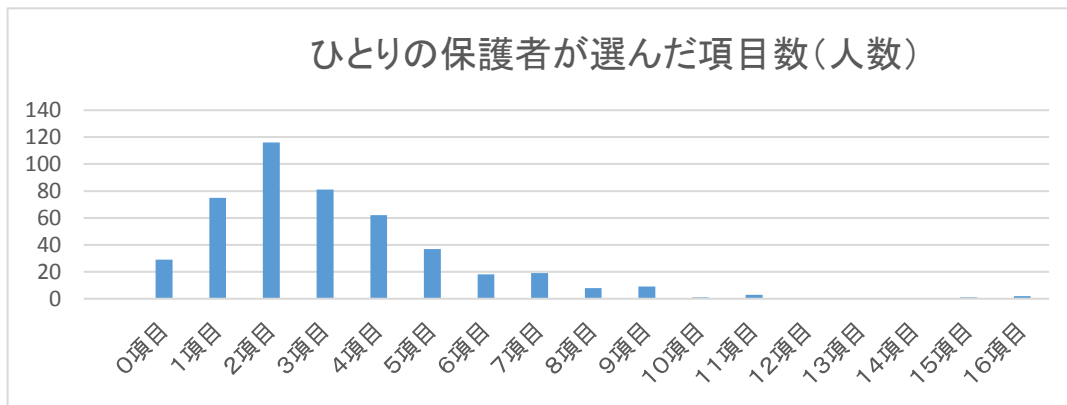
(2)新しい高校のビジョンについて

Q4 新しい高校のビジョンについて、関心がある内容はどれですか。あてはまる項目にすべて○をつけてください(複数回答可)



保護者が関心を示した中で最も多いのは、総合学科の特色である「将来の生き方や進路についての学び」の235件で半数以上の保護者がこの項目を選んでいます。また、「英語コミュニケーション能力の向上」が163件、「総合学科の普通科系列」は130件、「一定大学進学を可能とする科目の開設」が107件と、学力向上や進学に関する項目が多くなっています。

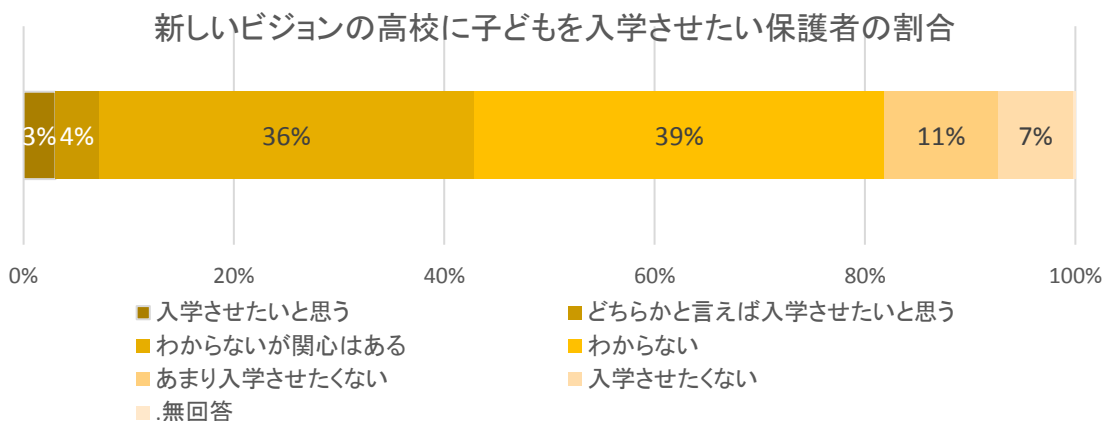
一方で、新しい高校のコンセプトにしている「地域活性化に貢献できる人材育成」や「実践的な課題探究による教育」への関心も高く、約25%の保護者が選んでいます。



この設問は複数回答であり、ひとつも関心がないとした保護者は29名で、反対に16項目すべてに関心があるとした保護者は2名いました。

また、全体では、2項目を選んだ保護者が最も多く116名、次いで3項目が81名、1項目が75名、4項目が62名、5項目が37名となっており、全体の80%の保護者が1～5項目を選んでいます。

Q5 新しいビジョンの高校にお子様を入学させたいと思いますか。あてはまる項目に○をつけてください(一つのみ)



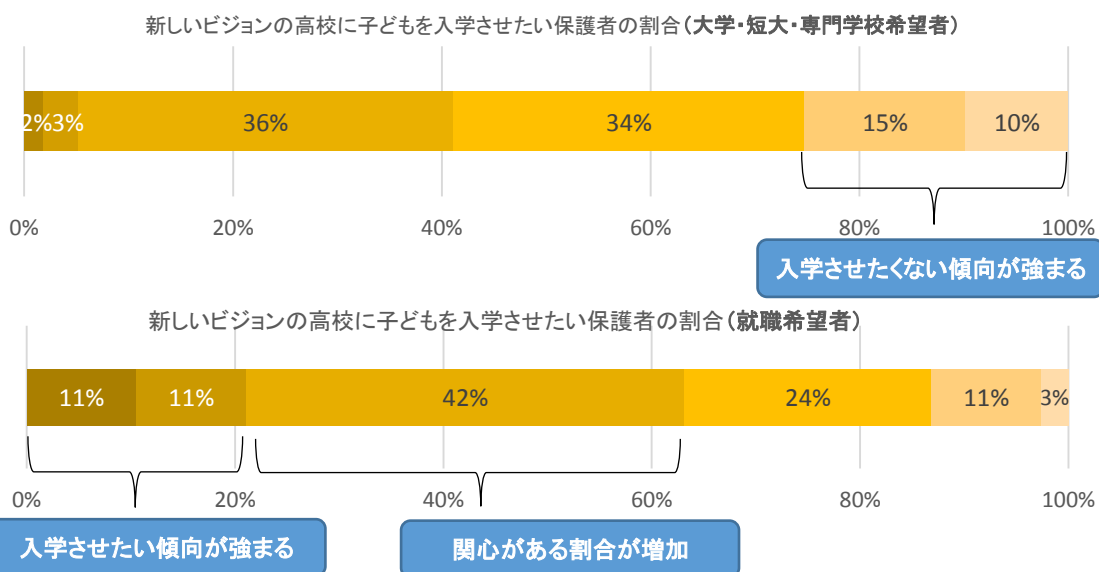
○ 回答結果 (全体)

【単位: 件数】

入学させたいと思う	どちらかと言えば入学させたいと思う	わからないが関心はある	わからない	あまり入学させたくない	入学させたくない	無回答	合計
14	19	165	180	50	33	1	462

「入学させたい」「どちらかと言えば入学させたい」と回答した保護者は7%、「入学させたくない」「あまり入学させたくない」と答えた保護者は18%、「わからない」「わからないが関心はある」と回答した保護者は75%となり、大半の保護者は、わからないと答えています。

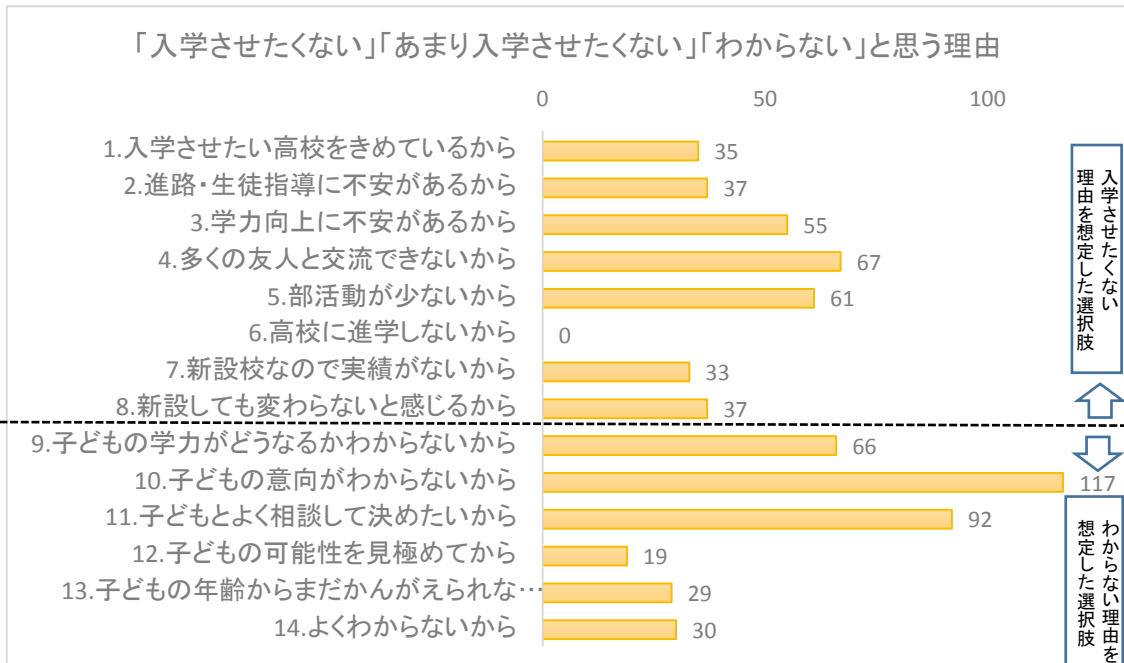
また、わからないと答えた保護者のうち「わからないが関心はある」と答えた保護者は36%いることから、「入学させたい」「どちらかと言えば入学させたい」を選んだ保護者も関心があるとみなすと、全体で43%の保護者が、新しい高校づくりに関心を持っている結果となっています。



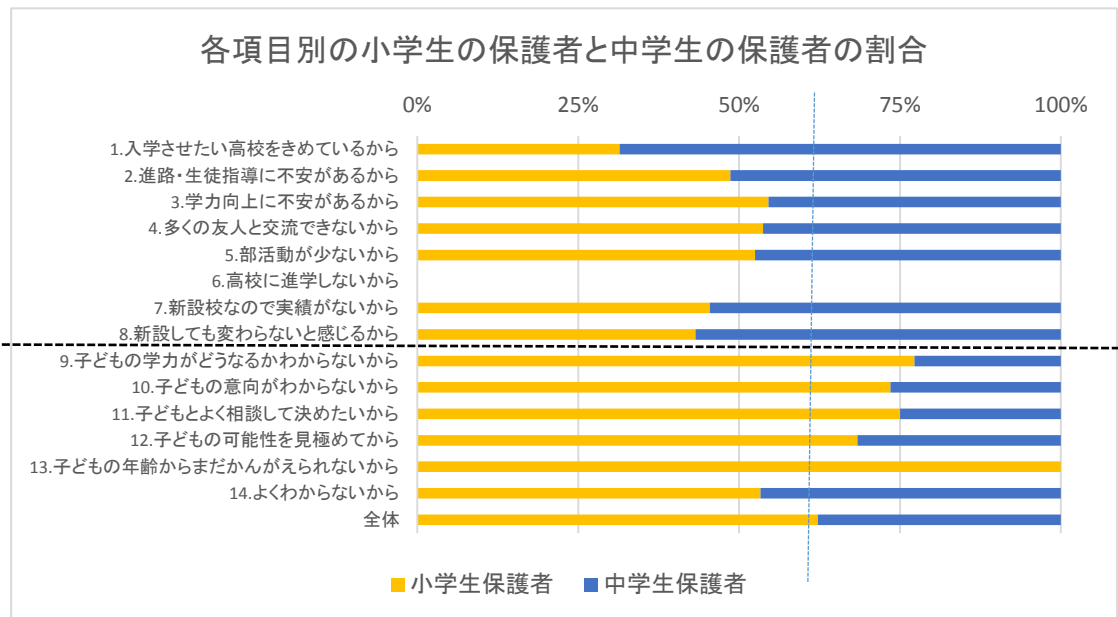
進学(大学・短期大学・専門学校)を希望する保護者と、就職を希望する保護者別に、新しい高校への入学希望割合を見たところ、進学希望の保護者は『入学させたくない』傾向が強く、反対に就職希望の保護者は『入学させたい』傾向が強まります。また、就職希望者は「関心がある」割合も増えていることがわかります。

Q5で「あまり入学させたくない」「入学させたくない」「わからない」と答えた方への設問

**Q6 「あまり入学させたくない」「入学させたくない」「わからない」と思う理由
はつぎのどれですか。あてはまる項目にすべて○をつけてください(複数回
答可)**

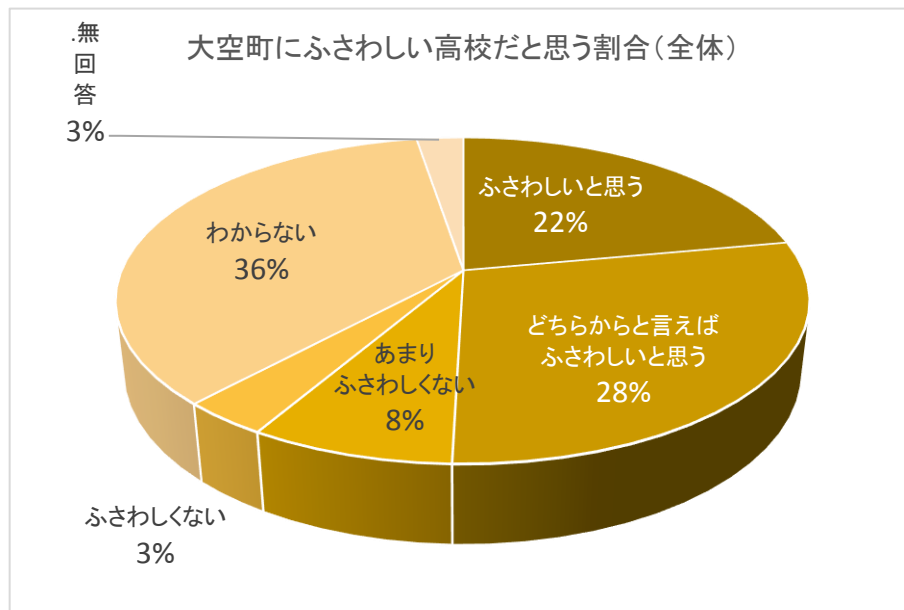


1～8は「入学させたくない」「あまり入学させたくない」の理由を想定した選択肢ですが、「多くの友人と交流できない」「部活動が少ない」「学力向上に不安がある」を選んだ保護者が多くなっています。また、9～14の項目は「わからない」理由を想定した選択肢ですが、「子どもの意向がわからない」「子どもとよく相談して決めたい」が特に多く、高校の進学に関しては、子どもの進路希望を尊重したいと考える保護者が多いことがわかります。



このグラフは、各選択肢を選んだ小・中保護者の割合を表したものです。1～8は高校進学が間近な中学保護者の割合が高く、反対に9～14は進学に間がある小学保護者の割合が高くなっています。その中でも「3.学力向上に不安がある」と「4.多くの友人と交流できない」は、小学保護者の割合が比較的高いことから、小学生の段階にあっても保護者が入学させたくない明確な理由になっていることがわかります。

Q7 お子様に関せず、ご自身の視点から見て、新しいビジョンの高校は、大空町にふさわしい高校だと思いますか。あてはまる項目に○をつけてください(一つのみ)

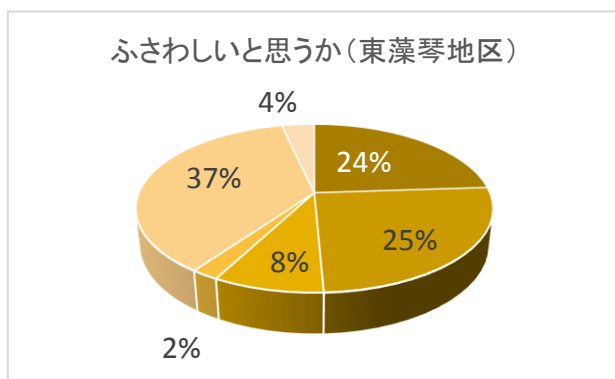
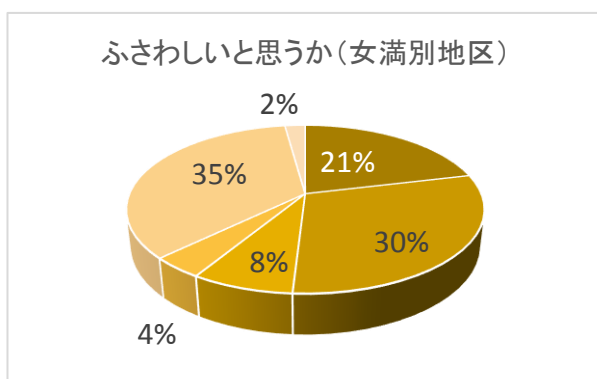


○ 回答結果

【単位:件数】

ふさわしいと思う	どちらからと言えばふさわしいと思う	あまりふさわしくない	ふさわしくない	わからない	無回答	合計
102	131	37	16	164	12	462

「わからない」と回答した方が36%、「ふさわしいと思う」は22%、「どちらからと言えばふさわしいと思う」が28%、反対に「あまりふさわしくない」は8%、「ふさわしくない」が3%となっています。全体的にみて、相応と思う方は50%おり、反対に不相応と思う方は11%、となっています。



地区別にみると、女満別地区は「ふさわしい」「どちらからと言えばふさわしい」が51%、「あまりふさわしくない」「ふさわしくない」が12%となっています。

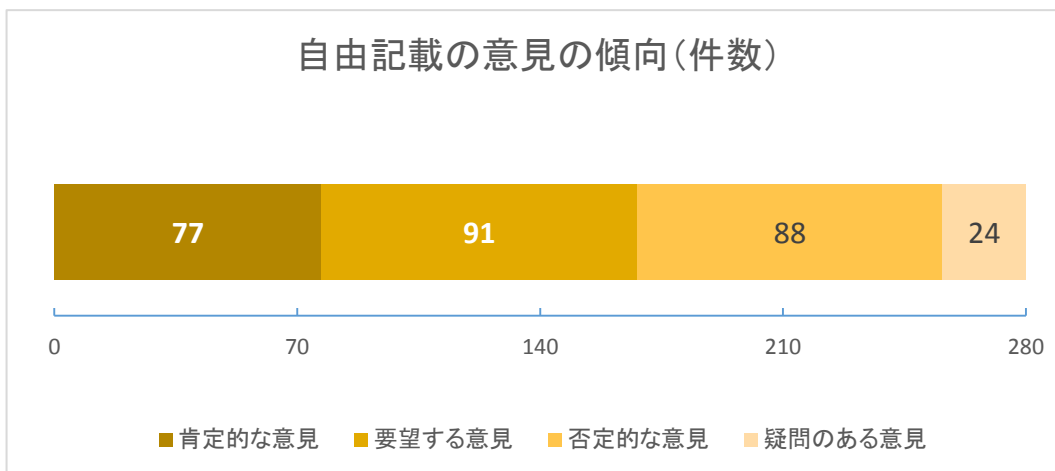
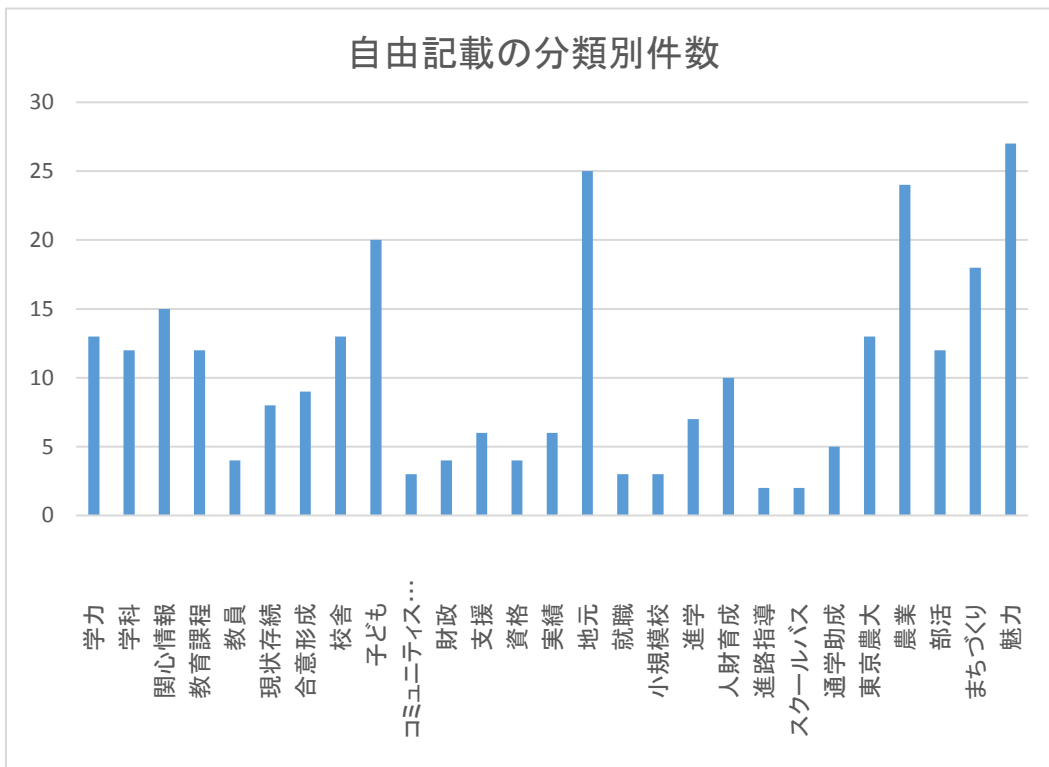
東藻琴地区は、「ふさわしい」「どちらからと言えばふさわしい」が49%、「あまりふさわしくない」「ふさわしくない」が10%となっています。

地区別にみても両地区の違いはなく、全体の割合と比較しても、さほど変わらない結果になっています。

(3)自由記載の意見について

本アンケートは各設問ごとの選択肢から回答を選ぶようにしていますが、Q4からQ7の設問では回答を補完するために記載欄を設け、Q8では「新しい高校づくり」全般に対する自由記載欄を設置したところです。各設問の記載意見の総数は280件で、そのうちQ8の自由記載欄には149件の意見が寄せられています。

それぞれの意見は、その内容から28項目に分類してまとめたところですが、これらの意見の傾向は、新しい高校のビジョンに対する肯定的な意見が77件、要望する意見が91件、否定的な意見が88件で、疑問のある意見が24件となっています。



※ 自由記載は、資料編に掲載しています

3. 総括

○大学や専門学校へ進学するため町外の高校に通わせたい保護者が多い

【Q2】の結果から、町内の高校へ進学させたい保護者の割合は1割で、近隣市へ通わせたい保護者が多く、1割の方が管外も視野に入れていることもわかりました。

高校卒業後の進路を聞いた【Q3】では、就職より大学や専門学校へ進学させたい保護者の方が多いことがわかりました。

少子化の影響や社会情勢の変化から全国的にも大学進学率が高まっている中、本町の保護者も同様の傾向がみられ、学力向上や進路指導、多様な部活動などを求めて、経済的負担が増しても、町外の高校に通わせたいと思っている保護者が多いことがわかりました。

○「将来の生き方や進路についての学び」に対する関心が高い

【Q4】において新しい高校のビジョンについて最も関心を示した項目は「将来の生き方や進路についての学び」で、2人に1人の保護者がこの項目を選んでいました。

急速な情報化社会の到来により働く環境が変化している中、未来を担う子どもたちに対する「将来の社会情勢を見通した進路指導」に保護者が期待を寄せていることがわかりました。

○地元からの進学率向上の可能性

【Q5】の結果から、新しいビジョンの高校への入学希望は7%と少数でしたが、75%の保護者が「わからない」と答えています。また、その中でも36%の保護者は「わからないが関心がある」と答えており、入学を希望している保護者と合わせると、43%の保護者が新しい高校づくりに関心を示していることがわかりました。

これまで教育委員会では、説明会の参加者数などから、「保護者の関心は低い」と思っていました。が、「もう少し情報がほしい」、「どんな高校か気になった」、「地元がいい高校があれば」との意見が自由記載に寄せられており「子どもにあった高校なら地元に通わせたい」とした保護者の意向が伺えました。

○「大空町にふさわしい高校」と思った方が半数を占めている

【Q7】の結果から、新しいビジョンの高校が、大空町にふさわしい(どちらかと言えばふさわしい)と答えた保護者が50%を占め、一方でふさわしくない(あまりふさわしくない)と答えた方は少数の11%になりました。

この設問は、子どもに関せず保護者自身の視点から回答を求めているため、新しい高校のビジョンに据えた「地域の人材育成」や「基幹産業を基軸にした教育」などに、まちづくりの視点から多くの方が一定の理解を示したものと思われます。